
(財) 都市防災研究所 CATV 電話網利活用「災害時第二通信網」運用実験始動開始！

～ 地域防災に貢献できる、CATV の新たな社会インフラの構築・役務樹立を目指して ～

この度、東京ケーブルネットワーク株式会社（代表取締役：淀 敬 /東京都文京区）は、財団法人都市防災研究所（事務局長：守 茂昭 /東京都千代田区）が主管する「災害時第二電話網」運用実験に参加し、震災等の有事状況下における CATV 網の利活用について、地域インフラを担う CATV 事業者の立場から、そのインフラ、ネットワークならびに活用手法の研究開発を（財）都市防災研究所とともに推進して参ります。

「災害時第二電話網」は、災害時の NTT 電話や携帯電話の輻輳状況を想定し、迂回網として CATV 電話網の活用し、同一 CATV 局内・CATV 局間・一般回線との疎通網の確保を鑑み、都市部にける被災時の通信リタルダンシーを一段と向上させることを目的としております。

また、本実験のメイン地域となる丸の内・大手町地域は、震災時、多くの帰宅困難者が発生すると予測されています。これら帰宅困難者が、家族との連絡が取れるか否かより、家族の安否を気使わず会社に留まる等、その後の行動パターンや心理状況が、より良く方向づけされると想定され、被災状況下の「災害時第二電話網」の存在・整備の重要性が唱えられております。

「災害時第二電話網」の検討は、平成 19 年度に、小出治氏（東京大学工学部都市工学科教授）を委員長に、国土交通省、内閣府、千代田区、東京駅周辺防災隣組、富士見町・飯田橋駅周辺帰宅困難者対策協力会、四ツ谷駅周辺帰宅困難者対策協力会、(社)日本ケーブルテレビ連盟、東京ケーブルネットワーク、ならびに、大手 MSO の CATV 事業者数社の参加メンバーによる「災害時第二電話網検討委員会」が発足され、その可能性について検討が重ねられてきました。

その後、都市防災研究所が主幹となり、平成 20 年度総務省「戦略的情報通信研究開発制度 (SCOPE) 地域 ICT 振興型研究開発」として、「WiMAX の普及を視野においた東京駅周辺業務市街地と CATV 電話網の接続による帰宅困難者対応第二通信網の研究開発」採択され、本実験に実施に至りました。

東京ケーブルネットワークでは、本実験におきまして、CATV 電話網の構築・利活用支援を進めると共に、東京ケーブルネットワークにて、平成 21 年度本格始動する「地域 WiMAX 無線インフラ」との連携や、WiMAX の防災・被災状況下の通信インフラの活用樹立を目指して参ります。

また、この実験により得られた知的情報等につきましては、連盟等の団体・機関を通じて、全国の CATV 事業者や行政・自治体に広く公知し、我が国の情報インフラの高度化と、災害に強い地域・国づくりに貢献すべく邁進してまいります。

◆ お問い合わせ先 ◆

東京ケーブルネットワーク株式会社	03-3814-2899	http://www.tcn-catv.co.jp
財団法人 都市防災研究所	03-5218-0880	http://www.udri.net/

関連のイベントにつきましては、別紙のとおりです。是非、ご参加ください。

「災害時第二通信網」関連イベントのお知らせ

千代田区帰宅困難者避難訓練丸の内コース 災害時第二防災電話開通セレモニー

<http://www.udri.net/kitakukonnan/japgaiindex.htm>

- 平成21年1月16日（金） 午前9時から
- 東京駅行幸通り地下スペース（東京駅地下中央口から地下伝いに行幸通り地下中央付近）

千代田区帰宅困難者避難訓練（丸の内コース）スケジュール・概要

- 8:30～9:00 東京駅行幸通り地下スペースにて受付
- 9:00 災害時第二通信網開通セレモニー（東京駅周辺防災隣組）
- 9:20 「アメリカ・英国大使館防災担当官による外国人防災対策シンポジウム」
- 10:20 バスにより千代田区内帰宅困難者支援場所
（日比谷公園、皇居前広場、皇居東御苑）を視察
- 11:00 千代田区役所にて英語で救命救急訓練 AED 英語講習
- 11:30 真田堀グラウンド
- 12:00 解散予定

千代田区では毎年1月17日に、東京都心部で地震が発生した場合を想定した、途中通行者の被災対応を想定した「帰宅困難者避難訓練」を開催しております。第6回目は2009年1月16日、例年通り、在日外国人対象の訓練参加の募集をいたします。昨年から試みとして、直接英語で行うレクチャーを企画いたします（ただし、通訳も同席はいたします）。東京駅行幸通り地下スペースに集合した後、災害時第二通信網開通セレモニー、「アメリカ・英国大使館防災担当官による外国人防災対策シンポジウム」、千代田区役所を経て解散するコースで、都心部で被災したとき、どういう状態が予想され、どういう場所が安全か、知っていただくことが目的です。同時にオリエンテーリング形式のアンケートを行い、回答者から抽選で地震被災時に救援に駆けつけてくださる浅間山麓の農産物が提供される予定です。

シンポジウム

「DCP（District Continuity Plan）の時代」にて災害時第二通信網の意義を紹介

- 平成21年2月24日（火） 午後1時から
- 霞山会館 牡丹の間（東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館 37階）